

# 新たな食習慣提案

## 弘大とハウス食品 研究講座を開設

### 健康寿命延伸へ

弘前大学大学院医学研究科とハウス食品グループ本社(浦上博史社長)は6日、弘大で共同研究講座「食と健康科学講座」の設置開設式を行った。食生活と健康指標の関連性を分析し、健康寿命延伸につながる食習慣を明らかにする。

(太田佳希)

設置は1日付、期間は3年。弘大が2005年度から行っている「若木健康増進プロジェクト健診」のビッグデータを活用し、健康な高齢者の食生活や運動習慣、血液データなどを分析する。認知症やフレイル(虚弱)との関わりも調べ、食事の内容から食べるタイミングにまで踏み込むような新たな食のスタイルの提案を目指す。

同社の田口昌男取締役は「食品成分と健康との関連はいろいろなところで研究

されているが、世界に類のない健康ビッグデータを活用することで、単なる一成

分、一食品に限らない食生活との関係をひもときたい」と語った。

佐藤敬学長は「食と健康に関する情報は身の回りにあふれているが、明確なエビデンス(科学的根拠)がないように思えるものもある。この講座を通じ、新たに世に問うことができれば



共同研究講座のプレートを掲げる田口取締役(右)と佐藤学長

幸いだ」と述べた。企業が弘大に共同研究講座を設置するのはカゴメやクラシエホールディングスなどに続いて9例目。